

タガ 日本の縮の緩みの考察

金沢工業大学客員教授
(株)人間と科学の研究所 所長

飛 岡 健

日本文化の基底の形成について

—日本人は、もっと日本文化の拡がりと奥行きを本質的に学び、

日本に自信を持ち、世界と渡りあおう！—



(2) 日本の文明、文化の持つ拡がりと奥行きの素晴らしさについて

前号の(1)であるTV番組を取り上げて、外国人観光客がどんな所で、どんな理由で、どんな商品やサービスを買って持ち帰るのかの例を紹介すると共に、若干その理由を挙げ、少しだけその考察をしたが、集約的に述べるならば、外国の方々

が関心を示すのは、日本の文明、文化の持つ拡がりと奥行きの素晴らしさであるようだ。それは日本人の心の在り方と日本の物作りの伝統の外國の方々がある人は勉強して、ある人は直観的にその場で認知したのであろう。そして何よりも明治維新以降の日本のアジアで一番早い文明開化の動きと、第二次大戦後の日本の奇跡的な復興努力の成果とが、日本を十分に取り込んでいないので、結

本の存在を世界に知らしめる役割を果たしてきたと言えるだろう。その点を次に見ていこう。より深い分析は3回目以降に行う。その全体像を示したのが図2である。以下で個々に説明を加えよう。

■日本社会の時間的継続性とそこでの文明、文化のサラダボール的蓄積の連續性

日本社会は一言で語れば、世界の

文明、文化のサラダボールである。一部はルツボ化しているとも言えるであろう。明らかに世界でも有数の世界中の文明、文化の集まっている

国なのである。その何よりの証拠は日本語である。日本語には、日本建国以来、世界の言葉がそのまま、あるいは翻訳されて、実に巨大な量が入つていている。結果として世界で唯

一自分の国の言葉のみで、幼稚園から大学までの教育を出来る国なのである。海外の国々は、日本発の言葉

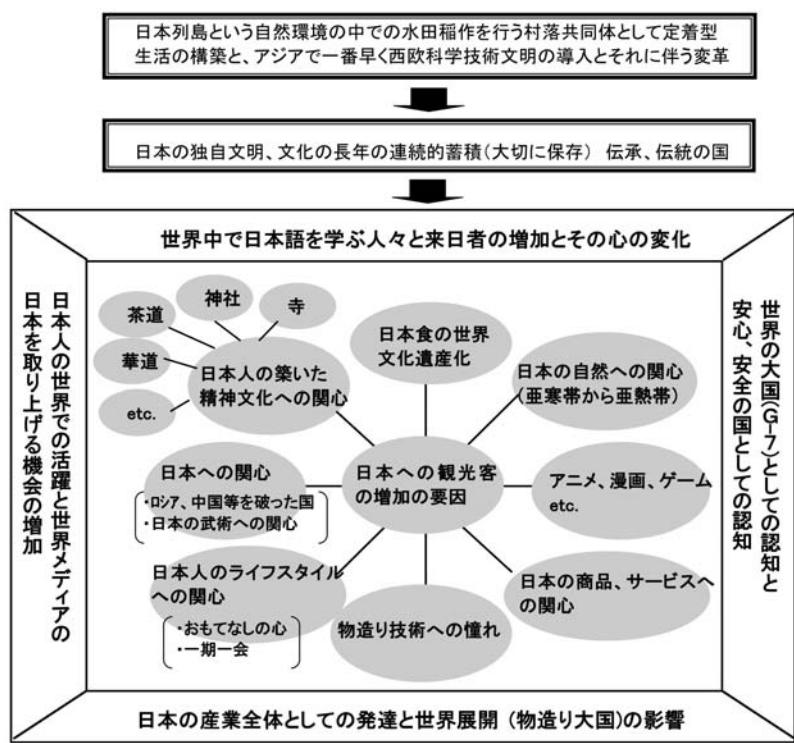
果として通は真ならぬのである。日本社会は、日本列島の中で変化はしているが、海外からの暴力で破壊された事は、蒙古の襲来時にその危険性はあつたもののはばなかつた。但し、第二次大戦の敗戦により、国土の一部が焦土化し、国家としてのシステムも憲法や法律、そして組織を

その結果として、日本という国の中には、丸山眞男氏が語る如く、「閉じたままの社会」でかれた文化と閉じたままの社会」で、多くのものは保存されてきた。何よりも京都を始め、多くの文化遺産は焼き尽くされなかつたので、そのまま残された。

“ジャボニズム”が展開し絵画、陶器を始め多く分野に影響を与えたのであった。

そして、中国、ロシア等の大国に勝つたアジアの唯一の国であり、同時にアジアの中で早く文明開化し、ヨーロッパの科学的技術文明を導入

A black and white photograph showing a robotic arm in an industrial setting, specifically a car manufacturing plant. The arm is positioned over a car's chassis, performing a welding operation. The background is filled with the intricate steel framework and support structures of the factory, with various pipes and beams visible. The lighting is dramatic, highlighting the bright sparks from the welding process.



ボーラーの如く宿り、そこで様々な反応をし合い、一部はルツボ化すると共に、諸神混在の文化が保存され、今日まで来ているのである。ところが社会構造そのものの骨格は僅かしか変化していないのである。この日本という国の体制の継続性こそが、日本を世界の文化のサラダボーラーや、ルツボとせしめている大きな要因の一つなのである。

し、それを日本的に改善し、逆に世界に輸出するまでになつた。その事が、日本のイメージとして世界に拡がつた。そして何よりも“物作り大日本”として、その造り上げるものの品質の良さと、契約をしっかりと守る事により、世界でその信頼を勝ち得ていつたのであつた。他の稿で、今日その信頼が少し緩んできた事を指摘したが、確かにその不安は少しずつ強まつてゐる。

国サミットメンバーになり、その名を世界に知らしめた。そして、暫くの間ODAにしても、国連の分担金にしても、他の分野での支援にしても、アメリカに次いで世界第三位の地位を占めていたのであった。



そうした中で、日本語を世界中の学校で学ぶ人々が、今から10年前以上から1000万人を超えて、日本に関する関心を高め、日本人の書く論文や様々な事に関する内容を、日本語で理解するようになっていった。そうした蓄積が今日の日本への関心増加の一因となっている。

更に、日本語を世界中の学校で学ぶ人々が、今から10年前以上から1000万人を超えて、日本に関する関心を高め、日本人の書く論文や様々な事に関する内容を、日本語で理解するようになっていった。そうした蓄積が今日の日本への関心増加の一因となっている。

■ 日本文明、文化への関心の増大

更に、日本の文明、文化が世界に様々なに拡がり、その存在感をかなり醸成しつつある。特に今日、日本文化に関する関心内容の高まりが次の分野で著しい。

- 浮世絵等の美術
- 日本の武道
- 日本の漫画
- 日本のアニメ
- 日本のゲーム
- 日本の盆栽
- 日本の鯉
- 折り紙、小物
- 日本人のチームワーク、組織力
- 日本人のおもてなし、面倒味
- 日本人のライフスタイル（晩、布団、風呂）
- 日本の神社仏閣
- 日本の自然（富士山、箱根）
- 日本の食と茶とその作法
- 日本の医療、介護、医療品、介護用品
- その他

パンとして政策的に支援している。

今のこと、未だ十分の成果を挙げているとは言えないが、その意図は高く評価出来るし、その戦略は正しいので、より補強して、初期の目的を達成するべく努力を拡大していくことである。

■ 日本人の世界での活躍と世界でマスメディアの日本を取り上げる機会の増加

海外の方々が、日本に関心を持ち、学んだり、来日して日本を実感されることに加えて、大きな一因である。

- 学会活動や、ノーベル賞の受賞
- 芸術活動（オーケストラ、合唱団、歌舞伎、和太鼓、茶、華）
- 日本企業の海外進出
- 日本の料理人や、ソムリエ、シェフとしての活躍と和食の文化遺産化
- 日本宗教家の世界での伝道、布教
- 普通の日本人の世界各地での活躍
- 日本の俳句や文字の広まり
- 様々な海外での事業展開
- その他

戦後70年以上の時間が経過する

中で、多くの日本人が海外へ出て、そこで活躍し貢献する事によつて、日本への評価が高まり、日本ファンになる方が多いようである。

同時に海外のメディアが日本に関する露出を増やしている事も日本で関心を高めてきた大きな要因であろう。もちろん、海外メディアの日本露出は、世界の中で相対的には小さいが、それでも絶対数としては、政治、経済、社会、文化等の全てに渡つて年々増えている事は確かである。

加えて日本の自然災害と福島での津波による原発事故と、その対応の紹介は世界の関心であり、その他の多くの自然災害と共に、日本の実情が世界に報道されているし、最近の安倍政権は、G-7においてもドイツのメルケル首相に次いで二番目に古く、その中央に位置する事も多く、その姿が世界に露出されている。

更にインターネット社会になり、世界中の人々がSNS等を通じて日本に関心をより強く持つてきているようである。おそらく、今日の3000万人のインバウンドの来日



客が、40000～50000万人程度
へ伸びていく事はかなりの確率で予
想し得ることであろう。

■日本の自然と日本の歴史と日本 人のライフスタイルへの関心

そして富士山、富岡の製糸工場や
長崎の軍艦島が、世界遺産に登録さ
れた事もあり、日本の自然と歴史に
関しての海外の人々の関心は高まっ
てきている。私も世界を旅していて、
世界に負けない位に日本には自然の
素晴らしさがあると思う。若干建
築物の統一性が無いとか、都市計画
が雑然とスプロール化によつて出来
ている等々、世界に見劣りする側面
もあるが、自然そのものは、日本独
自のモノを宿している。

北海道から沖縄まで、亜寒帯か
ら亜熱帯までの地形や気象条件を
有し、四季折々の多様性を見せてく
れるのが日本である。春は桜、夏は
海水浴、盆踊り、秋は紅葉や月、冬
は雪と、まさに四季の情緒が満載
のが日本列島である。世界の人々
は、そうした日本に異国情緒や、「新
珍奇」を感じ、日本を訪れる事へ
の魅力を強めてくれる。この事は逆
に日本人がもう少し自らの魅力に

- 農家の暖炉の生活
- 茅葺屋根の雪景色の中の集落
の景色
- 田んぼの美しさ（千枚棚）
- 動物が入つてゐる温泉の珍し
さ（サル カピバラ等々）
- 四季の花々（春の桜、秋の紅葉）
- 安心、安全、清潔な街の環境
- 居酒屋
- 畳、布団での睡眠
- 華道、茶道
- 掛け軸、壺、陶磁器、
- 俳句、短歌、
- お風呂と温泉と海水浴
- 全員加入の健康保険制度や年
金制度
- その他

関して学び、意図的に、積極的に打
ち出し、アピールしていく事の大切
さを教えているのではないだろうか。

そうした環境の中で、構築された
日本人のライフスタイルに関しても、
世界の人々は、いかに日本の文明、
文化が素晴らしい内容を持つてゐる
かをより深く知り、より関心を示し
てゐるのが、今日なのである。逆に
肝心の日本人の関心は何處に？

（続く）